

## 生活支援・見守り協力店事業について

### ◎ 事業の趣旨

現在行われている住民主体の生活支援や地域見守り活動に加えて、地域にある商店等の協力を得て、町ぐるみの見守り支援や、生活支援のネットワークを拡げていくことにより、住み慣れたまちで安心して暮らせる仕組みづくりを目指しています。

この事業は、平成 29 年度から安城市と安城市社会福祉協議会が実施主体となり実施しています。



総合福祉センター0566-77-7888

↑ 各地区の連絡先を表記した見守り協力店ステッカーを令和 2 年度から配布中

### ◎ 生活支援・見守り協力店 市内654店舗（令和 2 年 3 月末時点）

地区内の住民や見守り活動者、見守り対象者本人等からの情報により選定した商店等のうち、事業の趣旨に賛同してくれた店舗のほか、農協や生協等の互助組織、生活支援を行う様々な主体（NPOやボランティア、福祉事業者等の団体）に協力をご相談しています。



### ◎生活支援・見守り協力店の役割

- 1 通常の業務の中でできる範囲の『生活支援に関すること』（生活用品や食品等の配達やちょっとした家事支援）への協力
- 2 「見守り協力店」のステッカーの掲示協力と、通常業務の中で下記のような気がかりなことを発見した時に、安城市社会福祉協議会などの関係機関へ連絡いただく『見守りに関すること』への協力

#### ア 来店の間隔が普段より空いたとき

→ ひとり暮らしの方は、体調を崩している可能性も考えられます

#### イ 会話の中で本人の状態がいつもとちがうと感じたとき

→ 認知症の疑いや何らかの病気などが考えられます

#### ウ 本人や家族等から相談を受けたとき

→ 困りごとを解決するために、専門機関を紹介するなどの必要があります

#### エ 小さな子どもだけで夜遅くまで外出している、子どもの泣き声や保護者のどなり声がしばしば聞こえるとき

→ 子どもや家庭に対する何らかの支援が必要な可能性があります

#### オ その他、きがかりなことを感じたとき

→ ささいなきっかけで、困りごとを早期に解決できる可能性があります

※ 対象は、高齢者、障がい者、子どもなど全ての地域住民です。

## ○令和２年度 店舗からの相談状況（令和２年９月末現在）

相談内容及びその対応									
地区名	相談				対応				
	情報提供	緊急対応	その他	合計	直接支援	情報提供	対応依頼	その他	合計
桜井	7	0	0	7	1	1	5	0	7
東山	1	0	0	1	0	0	1	0	1
作野	0	1	0	1	1	0	0	0	1
西部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安祥	1	1	0	2	1	0	1	0	2
明祥	2	0	0	2	0	0	1	1	2
中部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央	2	1	0	3	1	0	1	1	3
合計	13	3	0	16	4	1	9	2	16

中央地区社協だより 11 月号より 下記事例抜粋

見守りをしている中で、実際に生活支援コーディネーターに連絡いただいた事例の一部をご紹介します。

### 事例①

#### 相談

高齢者宅で郵便物が取り込まれていない。気温が高いこともあり心配なため、状況を確認してほしい。

#### 対応

生活支援コーディネーターから民生委員に連絡し、近隣の方等の情報も得て、本人が元気であることを確認できた。そのことを生活支援コーディネーターから店舗にも連絡し、お礼を述べた。

### 事例②

#### 相談

ときどき店舗に電話してくる人が認知症の疑いがある。店舗としては今後も対応できるが、専門職が関与しているか心配なため確認してほしい。

#### 対応

生活支援コーディネーターが地域包括支援センターに連絡し、地域包括支援センターが本人と関わっていることを確認。それを店舗に伝えると安心され、店舗で今後も見守りをする中で、「困ったことがあれば生活支援コーディネーターに連絡をする」ということになった。

### 事例③

#### 相談

店舗に来店された方が認知症の疑いがある。本人の状態が心配なうえ、対応に困っているため、解決に向けて話を進めてほしい。

#### 対応

生活支援コーディネーターが対象者の状態を確認。地域包括支援センターと情報共有をして、地域包括支援センターが対象者の家を訪問することとなり、高齢者支援の専門職が対象者に関わるきっかけとなった。